

# 愛知医科大学学報



第37回厚生会展出作品「二つの富士山」  
(写真提供 生理学講座 塩野裕之シニア講師)

＝ 第157号 ＝

2020. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1  
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

[www.aichi-med-u.ac.jp](http://www.aichi-med-u.ac.jp)

## ■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ	2
秋の叙勲の榮譽	8
令和2年度入学試験開始	10
令和2年度学年暦	12
第2回オープンホスピタル開催	21
Smile ～スマイル～	33
教育・研究最前線	34



### －愛知医科大学の更なる 発展をめざして－

理事長 祖父江 元

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、良いお年をお迎えのことと思います。

昨年1月28日に愛知医科大学理事長に選任頂き、ちょうど1年が経ちました。今、本学をとりまく環境は、大きく変わりつつあります。皆さまもご存知のように国立大学も法人化後15年以上が経ち、次の変革に向けた動きが始まっています。名古屋大学と岐阜大学の統合をめざす東海国立大学機構がスタートしていますし、学部との統合は全国的に進んでいます。国立大学再編の動きは確実に次の段階に入ってきていると考えられます。一方、病院についても、先日来、厚生労働省から発表があるように診療区分をベースにした統合の流れが見えてきています。また、文部科学省は私立学校法を令和元年6月に改訂し、私立医科大学に対しても財務・経営などの指導的役割を強めています。

これは人口の少子高齢化、第4次産業改革、グローバル化、経営基盤・ガバナンスの強化、ポリシー（中期計画・中期目標）、地域連携、産学連携、人生100年時代、認証評価、情報公開、IRなどのキーワードで示されるような時代の流れを受けての変革と思います。言い方は良くないかもしれませんが、大競争時代、大航海時代に入ってきており、いわば勝ち組、負け組の選別の時代がやって来ると感じられます。本学も当然この流れを克服して、更なる発展をめざしたいと思っています。

先代の三宅養三理事長は常に「新病院を始めとして建物の再開発は、ほぼ完了した。今後はソフトであり、ヒトであり、システムの開発が必要である。」と言われていました。私は、そのソフトやヒト、システム、その運営の考え方を再開発する役割を担っていると考えています。自己実現につながる活気のある大学をめざしたいと思います。この1年を見てみて、それらのソフト面の仕

組みや考え方そのものの古さが、発展を阻害している部分があることを感じてきました。物事の決め方やその実行の方法、情報の流れなどのガバナンスの点でも改変すべき点が多いように思います。

総体として、できるだけ具体的な短期・中期目標を各部署が持つこと、それに向けての具体的なアクションプラン、外部評価も重要になってくると思います。更に、当事者が実際に参加実行するプロセスが重要と思います。問題解決に当たって法人・大学・病院との連携が極めて重要と思います。特に、これらの組織を横断する重要なテーマや新たなイノベーションにつながるようなテーマは、あまり議論されてこなかったように思います。今、このような横断的、イノベーション的な幾つかの重要課題についてプロジェクトチームを立ち上げ、動きつつあります。地域医療連携、救急医療の改変、働き方改革に向けた改変（代務、開院日など）、経営・財務基盤の強化、診療重点化プラン、広報活動推進、組織改変、研究支援体制・研究組織改変など極めて多岐にわたっています。各部署からの参加型のプロジェクトにしていきたいと思っています。手の付けられるものから順次やっていきたいと考えています。職員の皆さまにおかれましては、これらの流れに積極的に参加して頂きたいと思っています。

昨年のこの欄に私は、「自己の実現」と「ヒト」と「イノベーション」ということを申し上げましたが、更にもう1つ、「for the patient, for the university, for the public」を付け加えたいと思います。これらは正に、今回上に述べたような議論と実行のプロセスを経ることによって実現できるものだと思います。

皆さまと一緒にこの1年頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。



## －未来創造に向けた準備－

学長 佐藤 啓二

新年おめでとうございます。今年は、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されますので、暑い夏が更に熱くなりそうです。

### ○ 社会情勢に伴う変化

少子化の歯止めが効かなくなっています。出生数が最多であったのは1949年でおよそ270万人でした。令和元年は86万人となり1 / 3以下になりました。2000年以降の20年間をみても、120万人から86万人となり28%も減少しました。大学進学率は横這いですから、単純計算では現存の大学や学部についておよそ1 / 4以上が削減対象となります。新興国では大学教育を充実させる取り組みを進めており、海外からの留学生受け入れ数を増加させることは期待できないと考えられます。また、リカレント教育として社会人受け入れを期待する動きもありますが、実質賃金が低下している現状では、社会人の学びを促進することも難しいのではないかと考えられます。医学・看護学領域でも淘汰の時代を迎えることは必至ですから、個性的で魅力的な教育を行うことができるよう、大学を挙げて取り組む必要があります。

### ○ 教育

昨年9月に医学教育分野別評価（JACME）を受審しました。若槻明彦医学部長始め、医学部教員諸兄の努力によって、概ね良好な評価を受けることができました。これにより世界標準をクリアしたことになりますが、世界に冠たる大学として認められるよう、新しく高い目標設定を行うことが重要です。「消滅可能性都市」が、市町村の半数に及ぶとされている我が国の医療を支える為に、多職種連携・共通教育を重視し、地域で活躍できる医療人材の育成を念頭に置いて、医学・看護学教育体制を再構築する必要があります。

### ○ 研究

科研費申請については「Jump up作戦」を継続し、2020年度分として216件の申請を行いました。昨年度に比し医学部8件増加、看護学部1件減少となりましたが、2015年比では医学部で68%増、看護学部で75%増となっています。研究創出支援センターの活動も充実し、研究支援部門では大学院生を中心とする指導実績19件・英文論文7報・共同研究論文8報となり、バイオバンク部門ではバンキングが4診療科から7診療科に拡大され、長久手市民を対象としたバンキングも開始される段階にきました。

### ○ 診療

令和元年上半期（新病院開院後5年半）の診療指標では、精神神経科を除く病床稼働率91.2%（昨年90.9%）、平均在院日数10.1日（昨年10.1日）、手術件数1,105.5件／月（昨年1,037.8件）、外来患者数2,617.4人／日（昨年2,609.6人）となり、高機能・高回転の病院として、更に高い成果を示すことができました。下半期では、病床稼働率が更に上昇しています。

これだけ高機能・高回転になってきますと、「働き方改革」についても考えておく必要があります。「Happy Monday」は、一部の医療者にとって「Unhappy」となっている現実から目をそらすことはできません。月曜日に手術が組まれている診療科では、他の曜日に手術・外来診療・病棟管理等の負荷が2割近く増大する結果となっています。「働き方の平準化」からすれば、トヨタ方式の様にHappy Mondayをなくし、他の曜日に分散して年次休暇を取得してもらおう考え方を取り入れる必要があるのではないかと考えています。特定診療科の負荷を平準化する為に、学内での積極的かつ建設的な検討を求めたいと思います。





## －医学部の更なる飛躍と ブランド化－

医学部長 若槻明彦

新年明けましておめでとうございます。

昨年の医学部での大きな出来事として、医学教育分野別評価の受審がありました。米国の外国人医師卒後教育委員会（ECFMG）から、「2023年以降、医学教育が国際基準レベルと認定された医学部以外の出身者には米国で医師になる申請資格を与えない。」との通告が発表されたことを契機に医学教育分野別評価が始まりました。本邦では、世界医学教育連盟から国際評価機関としての認証を受けた日本医学教育評価機構（JACME）による評価が2017年から正式に実施されています。

本学では、医学教育分野別評価の受審に向けて数年前から医学教育分野別評価推進委員会を設立し、自己点検評価報告書の作成に努めてきました。本委員会は、各領域のリーダーとサブリーダー及び10～20名の委員で構成され、各領域内で執筆担当を決めて全員参加で自己点検評価報告書を作成しました。また、上位組織として医学教育分野別評価運営委員会を設立して、長時間をかけて自己点検評価報告書のブラッシュアップを行い、JACMEに提出しました。その後、JACMEとの文書のやり取りを数回繰り返し、最終的に昨年9月に受審となりました。評価の最終結果はまだですが、昨年末のJACMEからの評価結果（案）では、全国平均を上回る良い結果が得られることができました。これもご協力頂きました多くの先生方や職員の方々のご努力の賜物です。この場をお借りして心からお礼申し上げます。今回の受審の中で最も印象的であったことは、本学の学生及び教員を極めて高く評価して頂いたことです。評価委員の先生方は他大学でも多くの面接を経験されていますが、本学は特別素晴らしいとお褒めの言葉を頂き、今回の受審の中で最も嬉しく感じました。一方で、改善点も幾つか指摘されましたので、来年度からは改善事項について、年次報告ができるように努力する所存です。

本学の医師国家試験に関しましては、新卒合格率の私立医科大学の順位は2015年には29私立大学中26位と不本意な結果でした。2017年4月に医師国家試験対策強化委員会を設立し、様々な積極的な取り組みをしてきた結果、

2018年の新卒合格率は29私立大学中14位（95.4%）、2019年は29私立大学中12位（94.4%）まで上昇してきました。一方、大学における学生の真の実力は留年生を含めた6学年次の全体数で評価するべきです。6学年次全体の合格率は2017年で66.9%と低かったのですが、2018年には80.5%に、2019年には85.6%にまで上昇しています。この結果は、本委員会の努力の成果だと思われます。また、本学入学時の成績は1年後に急落する学生が多いこと、入学試験の成績は卒業試験の成績と関連性のないこと、1学年次終了後の成績が卒業試験の成績と関連することなどが判明しています。従って、入学してから1年間の過ごし方が極めて重要であることから、1学年次の学生には、様々な教育内容を取り入れております。今後の医師国家試験の目標は、新卒の合格率が95%以上、私立医科大学の順位が5位以内です。この目標を達成するために、委員会を中心としたこれまでの取り組みを来年度も継続し、医師国家試験の合格率向上に努めたいと考えております。

入学試験では、昨年度、過去最高の受験者数で前年度よりも500名以上増加しました。これは、おそらく私立医科大学での不正入試が一昨年前に話題になりましたが、本学は文部科学省の調査で公正な入試と判断されたことが大きな要因であろうと分析しています。一方、今年の受験者数は以前の数まで減少すると予想していましたが、ほぼ横ばいの受験者数を確保することができました。これは本学の評価が高くなっている証拠だと思っております。今後も、この受験者数を維持しながら医学部の質的向上を目指す所存です。

医学部を取り巻く環境は今後も益々厳しくなってくることが予想されます。この中で生き残るためには、本学独自の特色を持つ必要があります。今後もブランド化を目指して努力していく所存です。今後とも何卒宜しくお願ひ致します。





## —より質の高い看護教育の 提供を目指して—

看護学部長 坂本 真理子

年頭に当たり、ごあいさつを申し上げます。日頃は、看護学部・看護学研究科の教育にご支援ご協力を頂き、深く感謝申し上げます。

令和2年は、昨年元号が替わって初めて迎える年ですが、新型コロナウイルス（COVID-19）が猛威を振るう波乱の幕開けとなりました。連日のニュースを見ながら、SARSコロナウイルスが世界的に流行し、日本にも大きな影響があったことを思い出しておりました。私は、フィリピン共和国の農村部でのフィールド調査に向かう予定になっていたのですが、まだSARSのアウトブレイクの終息宣言の前であったため、現地の公衆衛生責任者より、都市部で2週間健康状態を観察するように指示を受けました。新型コロナウイルス（COVID-19）の影響は、更に複雑な様相を呈しておりますが、今こそ、それぞれの立場で経験や知恵を出し合い、この健康危機を乗り越えなければいけない時だと思っております。

この場をお借りして、看護学部の1年をご報告させていただきます。まず、一番の嬉しい報告は、平成30年度の卒業生全員が看護師国家試験に合格したことです。これで、看護師国家試験の合格は5年連続で100%となります。国家試験への合格は、4年間の学修を経て、看護実践者としての第一歩を踏む出すためのパスポートとなるものです。ご支援頂きました保護者の皆さまや保健医療機関の指導者の皆さまの応援に応える結果となりました。

多くの看護学部が存在する東海地方で、決して気を抜けない状況ではございますが、来年度に向けた入学試験の応募者数も例年同様維持できており、本学部に対する期待に手ごたえを感じております。ますます進展する少子化の中、競争も激化し、厳しい状況が予想されますが、学生に魅力を感じてもらえる質の高い教育を提供して参りたいと思います。

今年度は、長久手高等学校との高大連携事業が開始された年でもあります。看護学部の教員を中心に、医学部の先生方や大学病院のスタッフの皆さまとともに、充実した「医療看護探究コース」2学年次生へのプログラムが展開されました。来年度は3学年次生へのプログラム、複数学年でのプログラムへと継続されます。実際に、高等学校の先生方と大学の教員が協働で教育に取り組む経験は、大学にとりましても高校教育の現場を知ることで、大学の中の教育に活かす良き機会となると思っております。

また、看護学部では令和4年度からの開始に向けて新しいカリキュラムの検討をスタートさせました。本学看護学部の強みとなる大学病院や外部実習機関、地域との良好な関係性を基に、新しいカリキュラムでは地域包括ケア時代に対応できる看護職の育成につながる、地域生活に根差した視点と臨床能力育成の両側面を更に強化していきたいと存じます。

看護学研究科においては、国が認めた「特定行為に係る看護師の研修制度」推進の背景もあり、診療看護師コースに関心を持って下さる方が増えております。全国から応募者を得ており、全国の看護系大学の中でも先駆けとして診療看護師育成に取り組んだ本学研究科の存在感が徐々に形になってきているように感じます。今後も多くの看護専門職の皆さまに関心を持って頂けるよう努力を重ねて参りたいと存じます。

看護学部は令和2年度に、看護学設立20周年を迎え、12月には記念事業も企画しております。今後も皆さまからの多くのご指導ご鞭撻を賜りたいと存じます。

最後になりましたが、皆さまのご多幸とご活躍を心から祈念致しまして、私からの年頭のあいさつとさせていただきます。



## 恭賀新年

— 新しい年2020年の始まりに当たり、  
ごあいさつを申し上げます —

病院長 藤原 祥裕

新年明けましておめでとうございます。2020年の新春を迎えるに当たり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

旧年中は、愛知医科大学病院の運営に多大なご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。皆さまのおかげで昨年は全ての月で一昨年を上回る医療収入を達成し、大幅な増収が見込まれます。医療収入は、病院が提供する医療の質×量の総計に相関しており、病院のアクティビティを示す包括的なバロメータと捉えることができます。本院の医療機関としての機能がますます充実していることの確固たる証拠と言えるでしょう。

しかし、本院はこれに満足している訳にはいきません。昨年全国424の公立・公的病院が再編・統合の検討が必要として実名を公表されたことは記憶に新しいところです。この公表は、今でも各地で様々な議論を呼んでいます。諸外国に比べ日本の病床数が多すぎることは明らかな事実であり、今後、更に地域医療再編が進むことは避けられそうにありません。近隣の各医療機関もそれぞれ様々な経営努力をして地域での存在感を高めようと必死になっています。その中で本院が生き残るためには、社会のニーズに応える医療を提供し、本院の存在価値をますます高めていくほかありません。歩みを止めることなく、更なる病院機能の充実に向けて邁進していききたいと思います。

昨年、病院を取り巻くもう一つの大きなトピックとして、医師の働き方改革がありました。今まで医師は過重労働を当然のこととして受け入れてきましたが、その一方で、過労死に代表される健康上の重大な問題を生んできたことも事実です。有給休暇もほとんどの医師にとっては実質的な意味を持たないのが実状でした。病院とい

えども適正な勤務管理を行い、過重労働を防ぎ、有給休暇を十分に取得できるような環境を整備することが求められています。我々は、職員の仕事を抑制しながら病院の機能をより高めていかなければならないという相反する課題を解決しなければなりません。そのために必要なことはチーム医療と病院のガバナンスを通じて効率的に医療の安全と質を改善していくことだと考えます。

愛知医科大学では数年前より診療看護師の養成を行っており、病棟、手術部、集中治療、救急医療など様々な分野でチーム医療の要となって活躍しています。来年度から本院でもパッケージ化特定行為研修を開始し、術中麻酔管理での看護師の活用を通じてチーム医療を更に推進していくことになっています。今後、周術期管理、救急・集中治療管理に留まらず院内のあらゆる分野でチーム医療を進めていきたいと思えます。また、近年労務管理や医療安全における病院長の責任が強調されるようになってきています。病院のガバナンスを徹底することによって医療の効率化と安全と質の改善を加速していきます。

今年は、秋に病院機能評価が控えています。最近、日本医療機能評価機構は機能評価項目の見直しを行いました。本院は特定機能病院として一般病院3の種別を受審しますが、過去の受審に比べると大幅に要求水準が高くなっていると聞いています。昨年、病院機能評価受審推進委員会を立ち上げ、整形外科学講座教授の出家正隆部長、小寺努病院事務部長を中心として受審に向けて鋭意準備を進めているところですが、病院職員のみならず大学全体のご協力が不可欠と考えます。皆さまのお力を借りて難関を乗り越えていきたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

## 役員・名誉教授・教授懇親会開催

令和元年12月19日（木）午後6時30分から名古屋東急ホテルにおいて、役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。お忙しい中ご出席頂いた69名の諸先生方は、久しぶりに顔を合わせられたこともあって話に花が咲き、とても和やかな懇親会となりました。

初めに祖父江元 理事長からあいさつがあり、浅井富成理事からの乾杯の音頭によって会が始まりました。懇

親会では、令和元年秋の叙勲を授与された稲福繁名誉教授、島田孝一法人本部長のご紹介を始め、今年新たに就任された名誉教授・教授・理事の先生や医学部長・病院長・看護学部長から近況報告や抱負などのあいさつがありました。

最後に佐藤啓二学長からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。

## 令和2年新年祝賀式挙行

令和2年1月6日（月）午後3時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

祝賀式では、初めに祖父江元 理事長から「少子高齢化、疾病構造の変化などの社会の変化をベースに大学や病院の統廃合や組織改変など、大きな変化が進んできています。これは言い方を変えると大競争時代に入ってきているということです。愛知医科大学もこの社会の波を乗り越えるべく、また将来の発展をめざして、大きなシステムの変革やイノベーションなどを進めていく必要があると思っています。皆さんと力を合わせ、一丸となって頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。」とあいさつがありました。

続いて、佐藤啓二学長から「少子化・医師過剰・競争が顕著となる時代を迎えます。これからの10年、経営基礎体力を強化し、医師国家試験合格率を常にトップ10に



新年のあいさつを述べる祖父江理事長

維持しなければ、愛知医科大学が勝ち残ることはできません。危機意識を共有し、皆さん一つとなって頑張っていきたいと願っています。」とあいさつがありました。

## 令和元年度愛知県災害医療コーディネータ研修開催

令和元年11月24日（日）愛知県医師会館において、本学を含め、愛知県と愛知県医師会の三者共催による令和元年度愛知県災害医療コーディネータ研修が医師及びロジスティック向けに開催されました。【写真】

愛知県の災害時における医療調整機能の強化を図ることを目的として、地域において災害時に医療チームの派遣調整、患者の受け入れや搬送の調整を担当する医師等を対象に、その活動に必要な知識の習得と県共通の認識を共有するための研修プログラムで実施されました。講師には、昨年度と同様に災害医療ACT研究所の方々を招へいし、研修を運営して頂きました。

研修会には、県内の保健所や各地域の医師会から36名の参加者が集まり、災害想定等を各地域の地図に書きながら、救護計画の策定や本部運営・救護班調整演習等を



行いました。

本学では、南海トラフ地震や各種災害における犠牲者を軽減するため、災害医療の教育・研究をより積極的に進めて参ります。



## 稲福 繁名誉教授（元愛知医科大学長）

### 秋の叙勲の栄誉

稲福繁名誉教授が、令和元年秋の叙勲において瑞宝中綬章を授与され、令和元年12月13日（金）国立劇場大劇場にて伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

稲福名誉教授は、昭和43年に名古屋大学医学部を卒業され、名古屋大学医学部において副手として入局、その後、昭和52年に愛知医科大学へ赴任後、講師、助教授を経て平成13年に教授へ昇任されると同時に、耳鼻咽喉科部長に就任されました。耳鼻咽喉科医としては主に真珠腫性中耳炎の手術を専門とし、この分野で社会的にも医学的にも貢献されました。また、めまい平衡神経学とその臨床にも力を注ぎ、大学病院のめまい外来を長年担当され、東海地方のめまい平衡神経学の発展に寄与されました。平成14年には愛知医科大学附属病院副院長、平成18年に愛知医科大学長に就任され、平成22年に退職されるまでの間、本学の教育・研究の発展と、新病院建設計画などの環境・体制整備に尽力されました。

受章後、稲福名誉教授が来学された際には、祖父江理事長に表彰状と勲章をお見せになりながら、愛知医科大学におけるこれまでのご苦勞、ご功績についての話を花を咲かせられました。



祖父江理事長（左）と稲福名誉教授（右）



## 愛知警察署感謝状の贈呈

本学が日頃から警察業務へ積極的に協力するとともに、安心で安全なまちづくりに大きく貢献したことに對して、令和2年1月9日付けで愛知警察署長から感謝状が贈呈されました。【写真】

これは、本学職員の大学付近の交差点での交通安全県民運動に係る街頭活動への積極的な参加や、本学が定期的に医学部、看護学部の学生を対象に警察関係者による「交通安全講習会」を開催することで、交通事故を防止するための交通マナーの普及及び交通安全意識の高揚を図ることに努めていることに対して贈られたものです。

本学は医科大学として、医療だけでなく、地域住民の皆さんとともに安心・安全な生活が守られるよう、今後とも様々な方面で貢献して参ります。

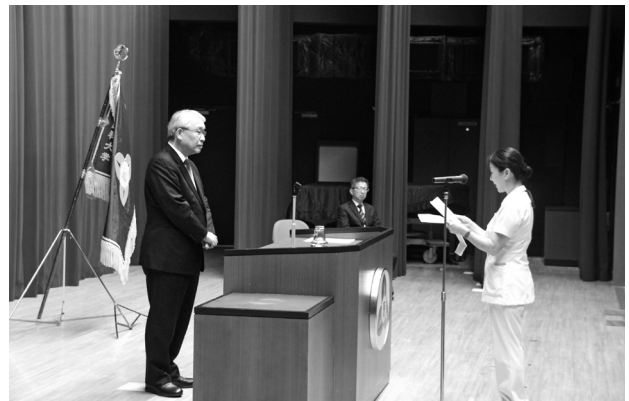


# 2019年度永年勤続者表彰

令和元年11月22日（金）大学本館たちばなホールにおいて、2019年度永年勤続者表彰式が行われました。

当日は、祖父江元 理事長から表彰状が授与され、被表彰者へのお祝いとお礼の言葉とともに、「永年勤続者の方が多く組織というのは強い組織であることの証です。今後の10年、20年を目指して、これからも頑張ってくださいと思います。本日は誠におめでとうございます。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、看護部の井上里恵看護部長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。

永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる井上看護部長

## 30年勤続者（14名）

鯨坂 礼子      阿保 勝枝      井上 里恵      植田 革章      黒田 康子      小林 康子      土屋 芳夫  
 長谷川恵子      福澤 嘉孝      山口 京子

## 20年勤続者（15名）

犬飼 洋子      尾崎 仁美      押田 郁      木村 伸也      善家 真紀      野田 百代      前野 照子  
 真ヶ田美香

## 10年勤続者（77名）

石本 沙織      市川 由佳      岩崎 愛      植田 広海      及川 美和      大嶋雄一郎      大村 雄三  
 小笠原尚高      小川 匡之      片桐美奈子      川島 昭一      國田 佳子      久保 昭仁      黒瀬 優輔  
 小堤 歩      後藤 未来      小西 裕之      小山悠里江      近藤あゆみ      櫻井慎一郎      佐々木誠人  
 佐藤 恵美      Sivasundaram Karnan      高橋美裕希      高橋 靖弘      田中 博之      谷 公寛      茶谷高太郎  
 徳井 啓介      西川 源也      西原 真理      丹羽由美子      橋本 亜弓      橋本 宏之      深津 博  
 舟橋あゆ美      古橋 明文      堀田 明紀      松田 真由      松永 佑一      水草 里美      水野 昌平  
 水本 強一      宮地 恵美      村瀬 雄亮      村松 有紀      山下 美耶      吉村しおり

（106名：五十音順・敬称略） ※氏名掲載は希望者のみ。表彰状に記載されている氏名としました。

# 令和2年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

## 《医学部》

### ●推薦入学試験

#### <公募制>

- ①試験日 令和元年11月16日(土)
- ②志願者数 88名
- ③受験者数 88名
- ④合格者発表 令和元年11月25日(月)
- ⑤合格者数 20名

### ●国際バカロレア入学試験

- ①試験日 令和元年11月16日(土)
- ②志願者数 3名
- ③受験者数 3名
- ④合格者発表 令和元年11月25日(月)
- ⑤合格者数 3名

### ●一般入学試験

#### <第1次試験>

- ①試験日 令和2年1月21日(火)
- ②志願者数 2,360名
- ③受験者数 2,304名
- ④第2次試験受験資格者発表  
令和2年1月27日(月)
- ⑤第2次試験受験資格者数  
432名

#### <第2次試験>

- ①試験日 令和2年1月30日(木)・31日(金)
- ②合格者発表 令和2年2月6日(木)

### ●大学入試センター試験利用入学試験

#### <前期>

##### <第1次試験>

- ①試験日 令和2年1月18日(土)・19日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表  
令和2年2月6日(木)

##### <第2次試験>

- ①試験日 令和2年2月13日(木)
- ②合格者発表 令和2年2月20日(木)

#### <後期>

##### <第1次試験>

- ①試験日 令和2年1月18日(土)・19日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表  
令和2年3月2日(月)

##### <第2次試験>

- ①試験日 令和2年3月6日(金)
- ②合格者発表 令和2年3月12日(木)

### ●愛知県地域特別枠入学試験

#### <A方式>

- ①試験日 令和元年11月16日(土)
- ②志願者数 14名
- ③受験者数 14名
- ④合格者発表 令和元年11月25日(月)
- ⑤合格者数 5名

#### <B方式>

##### <第1次試験>

- ①試験日 令和2年1月18日(土)・19日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表  
令和2年3月2日(月)

##### <第2次試験>

- ①試験日 令和2年3月6日(金)
- ②合格者発表 令和2年3月12日(木)

## 《看護学部》

### ●推薦入学試験

#### <指定校制>

- ①試験日 令和元年11月9日(土)
- ②志願者数 17名
- ③受験者数 17名
- ④合格者発表 令和元年11月19日(火)
- ⑤合格者数 17名

#### <公募制>

- ①試験日 令和元年11月9日(土)
- ②志願者数 59名
- ③受験者数 59名
- ④合格者発表 令和元年11月19日(火)
- ⑤合格者数 13名

### ●社会人等特別選抜

- ①試験日 令和元年11月9日(土)
- ②志願者数 3名
- ③受験者数 3名
- ④合格者発表 令和元年11月19日(火)
- ⑤合格者数 0名

### ●一般入学試験

- ①試験日 令和2年1月26日(日)
- ②志願者数 519名
- ③受験者数 515名
- ④合格者発表 令和2年2月5日(水)

### ●大学入試センター試験利用入学試験 (A方式・B方式)

- ①試験日 令和2年1月18日(土)・19日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:  
令和2年2月12日(水)



## 《大学院医学研究科》

### ●第2次募集

- 1 募集人員  
基礎医学系，臨床医学系各専攻合わせて22名
- 2 出願期間  
令和元年12月10日(火) から  
令和元年12月24日(火) まで【必着】
- 3 入学者選考方法  
入学者は，学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。  
①試験日 令和2年2月7日(金)  
②試験項目及び時間

時 間	試験項目
10：00 } 12：00	外国語(英語)[辞書使用可，電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は，英語一カ国語のみによる試験又は英語と日本の二カ国語による試験のいずれかを選択する。
13：00 }	面接試験（志望する専攻分野に関連する専門試験を含む）

- 4 合格者発表  
令和2年2月26日(水)
- 5 入学手続期間  
令和2年2月27日(木) から  
令和2年3月5日(木) まで
- 6 出願書類提出先  
愛知医科大学医学部教務課大学院係

## 《大学院看護学研究科》

### ●第2次募集

- 1 募集人員  
母性看護学，慢性看護学，地域看護学及び感染看護学の各領域合わせて6名
- 2 出願期間  
令和2年1月7日(火) から  
令和2年1月20日(月) まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法  
入学者の選抜は，学力試験，小論文，面接及び出願書類等を総合して判定する。  
①試験日 令和2年2月6日(木)  
②試験科目及び時間等

時 間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(※)
13：15～	面接

※専門科目の出題について

- ・修士論文コース：志願する専攻領域
  - ・高度実践看護師（専門看護師 [CNS]）コース：CNS関連分野
- 4 合格者発表  
令和2年2月12日(水) 正午ごろ
  - 5 入学手続期間  
令和2年2月13日(木) から  
令和2年2月19日(水) まで
  - 6 出願書類提出先  
愛知医科大学看護学部教学課大学院係



## 令和2年度学年暦のご紹介

令和2年度の医学部及び看護学部的主要な学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月2日	入学式
4月3日・4月6日	新入生ガイダンス
4月6日	2～6学年次前学期授業開始
4月7日・4月8日	1学年次新入生研修
4月9日	1学年次前学期授業開始
4月9日	1・2学年次学生定期健康診断
4月10日	3・4学年次学生定期健康診断
5月8日	5・6学年次総合試験A
5月8日	5・6学年次学生定期健康診断
5月11日	解剖慰霊祭
5月21日～5月29日	1学年次早期体験実習1a (シミュレーション実習)
6月8日～6月12日	1学年次早期体験実習1b (看護体験実習)
6月29日・30日・7月2日	4学年次定期試験
7月3日～7月9日	4学年次地域医療早期体験実習
7月14日～7月17日	2学年次定期試験
7月19日	5学年次Post-CC OSCE体験
7月19日	6学年次Post-CC OSCE
7月20日～7月22日	3学年次定期試験
7月20日～7月28日	2学年次外来案内実習
7月20日～8月16日	5学年次夏季休業
7月20日～8月20日	4学年次夏季休業
7月20日～8月30日	6学年次夏季休業
7月27日～7月30日	1学年次定期試験
7月29日～8月30日	2学年次夏季休業
7月31日～8月30日	1学年次夏季休業
8月3日～8月30日	3学年次夏季休業
8月21日	4学年次共用試験CBT
8月31日	1～3学年次後学期授業開始
9月7日～9月11日	1学年次早期体験実習1c (臨床科見学実習)
9月7日～9月18日	3学年次地域包括ケア実習
9月12日	3学年次アーリーエクスポージャー
9月12日	4学年次共用試験OSCE
10月5日	4学年次後学期授業開始
10月10日	4学年次白衣式
10月12日	6学年次後学期授業開始
10月15日	5学年次後学期授業開始
10月15日・10月16日	5・6学年次総合試験B
10月22日	1～3学年次防災訓練
10月31日・11月1日	医大祭
12月14日～12月18日	2学年次定期試験
12月17日～12月23日	1学年次定期試験
12月21日～1月3日	4・6学年次冬季休業
12月24日～1月3日	1学年次冬季休業
12月24日～1月10日	2・3学年次冬季休業
12月28日～1月10日	5学年次冬季休業
1月12日～1月15日	2学年次定期試験
1月13日	3学年次定期試験
1月20日～1月27日	2学年次チーム医療実習
1月23日	4・5学年次総合試験C
2月1日～2月4日	1学年次定期試験
2月1日～2月5日	2学年次地域社会医学実習
3月6日	卒業証書・学位記授与式
2月15日～3月31日	1～3学年次春季休業
3月15日～3月31日	4学年次春季休業
3月22日～3月31日	5学年次春季休業

看 護 学 部	
4月2日	入学式
4月3日・6～8日	新入生ガイダンス・新入生研修
4月6日	2～4学年次前学期授業開始
4月9日	2・3学年次学生定期健康診断
4月9日	1学年次前学期授業開始
4月10日	1・4学年次学生定期健康診断
6月20日	2学年次キャンドルセレモニー
6月22日～26日	2学年次定期試験
6月29日～7月1日	3学年次定期試験
8月3日～7日	1学年次定期試験
8月3日～9月13日	4学年次夏季休業
8月3日～9月14日	2学年次夏季休業
8月10日～9月14日	1・3学年次夏季休業
9月14日	4学年次後学期授業開始
9月15日	1・2学年次後学期授業開始
9月16日	3学年次後学期授業開始
10月22日	1・2学年次総合防災訓練
10月31日・11月1日	医大祭
12月21日～1月3日	1～3学年次冬季休業
12月21日～1月14日	4学年次冬季休業
1月4日～22日	2学年次定期試験
1月25日～3月31日	2学年次春季休業
1月25日～29日	1学年次定期試験
2月1日～3月31日	1学年次春季休業
2月3日～5日	3学年次定期試験
2月8日～3月31日	3学年次春季休業
3月6日	卒業証書・学位記授与式

# 医学生，研修医等をサポートするための会開催

令和元年11月5日（火）午後4時30分からアメニティ棟3階交流ラウンジ及び2階フードコートにおいて，愛知県医師会主催，日本医師会・愛知医科大学共催による「医学生，研修医等をサポートするための会」が開催されました。

当日は，本学における女性医師の働きや実際に保育所を利用している教員による講演が行われ，参加した医学部学生や研修医を始め，教職員など48名が参加しました。

男女共同参画プロジェクト委員会では，今後も職場の環境改善を必要とする教職員のために様々な企画を立案・実施していきます。

## ＜講演会＞

- ◆**総司会** 春日井邦夫  
内科学講座（消化管内科）教授／副学長  
／男女共同参画プロジェクト委員会委員長
- ◆**開会挨拶** 柵木 充明  
愛知県医師会会長
- ◆**当番挨拶** 若槻 明彦  
産婦人科学講座教授／医学部長

## ◆講演1

### 「女性医師として働いて～みんなに助けられて今がある～」

講師 川村百合加  
消化管内科助教（医員助教）

## ◆講演2

### 「女性医師は，育児と仕事を両立できるか？～私の体験談～」

講師 有元真理子  
耳鼻咽喉科助教

## ◆講演3

### 「女性医師による外科学の新時代」

講師 藤井 公人  
内科学講座（乳腺・内分泌外科）  
准教授

## ◆特別講演

### 「医師賠償責任保険制度について」

講師 市川 朝洋  
愛知県医師会副会長

## ＜座談会＞

- ◆**司会** 中野 正吾  
内科学講座（乳腺・内分泌外科）  
教授／卒後臨床研修センター長
- ◆**閉会挨拶** 小出 詠子  
愛知県医師会理事



柵木会長



川村助教（医員助教）



有元助教



藤井准教授



座談会の様子



## 医学教育者のためのワークショップ開催

令和元年12月20日（金）・21日（土）に1泊2日の「医学教育者のためのワークショップ」が、医学教育センター、シミュレーションセンター、IR室の協力の下、開催されました。【写真】このワークショップは、卒前教育の更なる充実を図るために、教育内容・教育方法等のソフト面での充実及び教職員、学生が一体となって医学教育の充実のための協働を図ることを目標としています。宿泊を伴うワークショップの良さは、大学の様々な部門の教員が一同に会して教育に特化した議論をし、交流を深めることができることです。

近年のICTの発達や学ぶべき医学的内容の膨大化は、従来型の専門的知識の伝達教育の転換を必要としています。今回のワークショップは、コンサルタントとして岐阜大学医学教育開発研究センターの藤崎和彦センター長をお迎えし、祖父江元 理事長、佐藤啓二学長、若槻明彦医学部長を始め、医学部教員35名が参加しました。



今後は、宿泊型FD（ワークショップ）を毎年継続して開催し、全教員に参加して頂くようにすること、そしてその積み重ねの結果、本学の医学教育が全国で冠たるものになることを目指しています。

### 国際交流



## ～更なる国際交流の進展と充実を目指して～ タイ国コンケン大学医学部 (FACULTY OF MEDICINE, KHON KAEN UNIVERSITY) 教職員来学

本学医学部では、平成23年度にタイ国コンケン大学医学部と学術国際交流協定を締結し、相互に学生等の派遣・受け入れを行い、相手校にて4週間の臨床実習にも参加しています。

この度、令和元年12月10日（火）に同大学医学部から Charnchai Panthongviriyakul先生（学長代行、医学部長、小児科学講座准教授）、Patorn Piromchai先生（医学部長補佐（国際交流協力戦略担当）、耳鼻咽喉頭科学講座准教授）及びPawinee Khamlar氏（国際関係室国際協力開発担当課長）が来学され、本学の視察や学生・教員との交流を行いました。

来学時には、佐藤啓二学長や若槻明彦医学部長への表敬訪問や渡辺秀人国際交流センター長を始めとする関係教員と昼食懇談会を行いました。短い時間ではありましたが、教育・研究以外の話題でも積極的にコミュニケーションを図ることができ、今後の相互の親睦と発展を確信できる有益な時間を過ごすことができました。更に、来学者の専門分野である耳鼻咽喉科や小児科を含む学内の施設見学を行い、本学への理解をより深めるだけではなく、両大学の関係講座同士において医療技術等の意見交換を行う良い機会となりました。



来学された先生方との記念撮影

施設見学後は、本学の教員・学生に対してPatorn Piromchai先生による、コンケン大学医学部紹介の講演が行われました。講演では、同大学の教育・医療システム等を知ることができ、海外留学や海外の医療に興味がある参加者にとっては、多くの貴重な情報を得ることができました。

今後は、更に国際交流事業を充実させ、本学の教員及び学生が多様な異文化に触れる機会を拡大する取り組みを積極的に行っていく予定です。

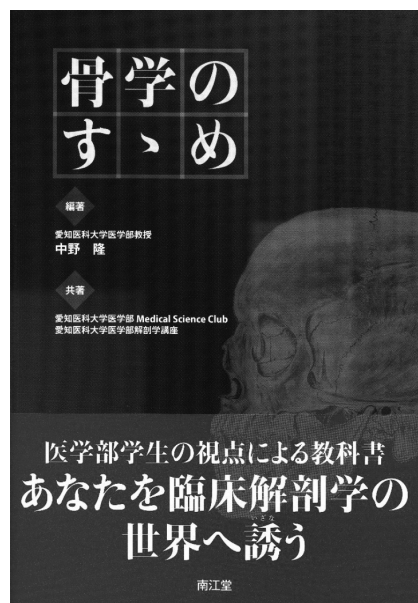
## 本学医学部学生が『骨学のすゝめ』を上梓

解剖学講座・教授 中野 隆

この度、本学医学部Medical Science Clubの学生が解剖学の教科書『骨学のすゝめ』【写真】を上梓しましたので、ご紹介します。

本書は、解剖学講座の教員と医学部学生がONE TEAMとなって築き上げた“能動学習のための道標（みちしるべ）”です。近年の臨床実習ではclinical clerkshipが重視され、学生は医療チームの一員として診療に参加します。同様に本書のプロジェクトは、当初から学生の視点を取り入れてきました。基礎医学から臨床医学、臨床実習へと進むにつれて、その時々で解剖学を振り返りながらアイデアを持ち寄り、教員指導の下、学生も自ら筆を執りました。

Medical Science Club部長の蓬莱春日さん（2019年卒業）をリーダーとして、山田崇義さん（2020年卒業）、古屋佑夏さん、中山幹都さん、花林卓哉さん、關栄茂さん（現5学年次生）が、5年の歳月をかけて纏め上げました。その間、「学生による医学教育改革に向けた提言」を主題に本書のプロジェクトについて学会発表を行い、2016年春の第121回日本解剖学会全国学術集会（福島県立医科大学）において学生セッション優秀発表賞、翌年



春の第122回日本解剖学会全国学術集会（長崎大学）では献体協会賞トラベルアワードを受賞しました。また、本書の図の一部は鰐淵空さん（現2学年次生）が描いています。

## 平成30年度看護学部・看護学研究科 ベストティーチャー賞表彰

令和元年12月3日（火）午後4時30分から大学本館4階役員会議室2において、看護学部ベストティーチャー賞授与式が行われました。

同賞は、平成29年度から新たに導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

第3回目となる今回は、看護学部及び看護学研究科合わせて4名の教員がベストティーチャーに選出され、佐藤啓二学長からそれぞれ表彰状が授与され、称揚と更なる期待の言葉をかけられました。

今後も授業改善に向けた取組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャーを受賞した教員は、次のとおりです。



授与式での記念撮影

### 看護学部

- ・萩野 朋子 准教授（老年看護学領域）
- ・佐々木裕子 准教授（在宅看護学領域）

### 看護学研究科

- ・高橋 佳子 教授（慢性看護学領域）
- ・佐藤 ゆか 教授（感染看護学領域）

## 看護学部一日体験入学開催

令和元年12月24日（火）看護学部実習室において、看護学部一日体験入学が開催されました。【写真】高校生を対象として、看護学部における講義の実際を体験することで、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めて頂くことを目的として開催しています。

当日は、39名の高校生が参加し、午前中の体験授業（テーマ「小さな力で患者さんを支えるコツ！」）では、緊張する中で皆真剣に聞き入っていました。体験演習（テーマ「ボディメカニクスを体験してみよう！」）では、体験授業で学んだ人間の身体構造や機能を力学的視点から捉えた良い姿勢や、効率的な動作、つまり「身体の使い方」を患者役、看護師役に分かれ実際に体験しました。その後、役割を交代することにより、補助される患者さんの気持ちも理解できたことと思います。昼食は、アシスタントを務める看護学部生と歓談しながら交流を深め、午後からはドクターヘリやドクターカーを見学しました。

参加した高校生からは、「授業や演習を体験でき、在学生の方が優しく話しかけて下さって入試のことなどを



たくさん聞くことができました。」「先輩方が優しく接してくれたので、充実した一日体験入学を経験することができました。私も先輩方のような看護学生になりたいと思いました。」「今までパンフレットやホームページでしか見たことがなかった世界を体験できて本当に良かったです。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、貴重な体験を通してとても有意義で充実した一日となったことと思います。

## 看護学研究科特別講義開催

令和元年11月15日（金）午後6時から看護学部棟N301講義室において、千葉科学大学看護学部教授の高橋方子先生をお招きし、「デルファイ法による日本版バリューズヒストリーの開発」というテーマで、大学院特別講義を開催しました。【写真】

超高齢社会・多死時代を迎えた日本では、患者の意思を尊重した終末期医療のあり方が問われています。講義では、終末期医療の意思決定、終末期医療の決定のプロセスに関するガイドライン、本人の意思と看取りの満足度に関する日本の現状を踏まえ、日本版VH（バリューズヒストリー）開発の詳細なプロセスをご紹介頂きました。VHとは、終末期医療の意思決定の根拠となる価値観歴のこと示します。

受講された方々からは、「エンドオブライフの準備として、健康な時から自宅で家族と考える手段として日本版VHを活用できると良い。」「日本版VHにより個人の



価値観歴を他者と共有できる。」といった日本版VH活用への期待が寄せられました。日本版VH開発のプロセスについては、「デルファイ法についてとても勉強になった。」と研究方法に関する感想も聞かれました。終末期医療の意思決定を支える価値観について考えるとともに、デルファイ法を学ぶ貴重な機会となりました。



# 第46回医大祭に寄せて

実行委員長 医学部3学年次生 嘉本 邦生

令和元年11月2日（土）・3日（日）に第46回医大祭が開催されました。【写真】

今年の医大祭のテーマは「Amuser.」でした。フランス語で「楽しませる・喜ばせる」を意味します。普段は勉学に励み、良い医師・看護師になるため、日々努力し続けている学生達が年に一度の医大祭で学生一人ひとりが楽しみ、地域の方々も楽しませることができる医大祭を作り上げたいと思い、このテーマに決めました。

医大祭期間中には タイムマシーン3号、おかずクラブ、かが屋、ひょっこりはん、フルフラットといった合計5組の芸人さん達によるお笑いライブが開催されました。普段はテレビなどでご活躍されている芸人さんが数多く集まり、約1時間にわたるお笑いライブは大盛況でした。その他、地域の方々との繋がりを感じる毎年好評のリサイクルマーケットや模擬店、学生によるスポーツ大会や芸大会等が開催されました。

また、今年は野外にステージを設置し、有志による野外ライブなどを企画、実現することができ、学生が一体となり楽しむことができました。野外ステージでは更にビンゴ大会、女装コンテスト、目隠しチャンバラなどが行われ、学生中心のイベントであるにもかかわらず、医大祭に足を運んで頂いた地域の方々も参加して頂き、学生と地域の方々と一緒に楽しい空間を作り上げることができたと感じております。

最後になりましたが、第46回医大祭が無事成功に終わりましたのも、多くの方々のご尽力があつてのことでした。この場をお借りしてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。これからも学生達が医大祭を通じて、自分や他者を楽しませる喜びを味わってくれる機会になることを願っております。



## 献血ご協力ありがとうございました

令和2年1月17日（金）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、令和2年6月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願ひします。

### 冬の団体献血

・ 献血受付数	・ 55名
・ 献血できた方	・ 41名 (400ml・33名)
・ 献血できなかった方	・ 14名

## 輸血機能評価認定制度（I&A制度）を取得

愛知医科大学病院では、日本輸血・細胞治療学会が実施する輸血機能評価認定制度（I&A制度）を平成31年4月1日付で取得しました。

I&Aとは、inspection（点検）とaccreditation（認証）するシステムで、安全で有効な輸血療法を実施する上で適切な輸血管理が行われているか否かを第三者（I&A制度視察員）が点検し、認証する制度です。輸血医療は、安全の保証と適正使用が求められています。厚生労働省より「輸血療法の実施に関する指針」、「血液製剤の使用指針」などが出されており、これらの指針に従って、安全で有効な輸血療法が実施されることが期待されています。

しかしながら、各医療機関の自主性に委ねられているのが現状です。日常行われるすべての輸血業務の安全を保証するためにも、適切な管理が行われているか否かについて、客観的な第三者による評価が必要不可欠です。この役割を担っているのがI&Aであると言えます。

本院では、I&A認定を礎とし、今後、より安全で有効な輸血療法を維持し続けることを目指していきたくと考えております。



輸血機能評価認定制度認定証



## マネジメントリーダー・スペシャリストリーダー認証交付式挙行

令和元年11月14日（木）中央棟3階共同カンファレンスにおいて、令和元年度マネジメントリーダーとスペシャリストリーダー認証交付式が執り行われました。

平成28年度にマネジメントリーダーを導入し3年目となり、今年度も新たに12名の申請を受けました。今後も看護管理者として変化を恐れず、社会のニーズに対応した変革ができること、コミュニケーション力、チーム力が高く建設的な交渉ができることなど発展的に尽力されることを期待しています。

また、スペシャリストリーダーは今年度から初めて導入しており、申請した専門看護師・認定看護師24名全員が、承認を受けました。スペシャリストリーダーの目的は組織理念を達成するために必要な看護の質の向上に貢献できる人材の育成、専門分野における、卓越した水準の高い看護の実践能力の評価・保証などを挙げています。今後、組織横断的に、更には地域へと発展的に活躍することを期待しています。



マネジメントリーダー認証の交付者



スペシャリストリーダー認証の交付者

## 令和元年度第1回保険診療に関する講習会開催

臨床研修病院においては、全職員を対象とした保険診療に関する講習が、年2回以上実施されていることが必須とされており、令和元年度第1回保険診療に関する講習会が、令和元年11月26日（火）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて開催されました。【写真】当日は、医師、メディカルスタッフ及び事務職員など幅広い職種から229名の参加がありました。

講習会のテーマは、「2020年度診療報酬改定を見据えて」と題し、株式会社メディセオの藤野雅也氏から解説をして頂きました。地域医療構想、働き方改革、タスクシフトの推進が、診療報酬上どのように評価されていくのかについて説明があり、回復期病床をもった後方支援病院と更なる連携を強化し、重症患者を定期的に受け入れる体制を整備していくことが重要であると再認識しました。



## 職場パワーアップセミナー 「職場のストレスとレジリエンス」開催

令和元年12月21日（土）午後1時から職場パワーアップセミナーが開催され、12名の看護職者が参加されました。看護職者一人ひとりが自分の成長を高めていく方法を考えることを目的とし、看護職が抱える職場のストレスと対処の仕方について、本学看護学部精神看護学領域の茅喜田恵子教授から「職場のストレスとレジリエンス」の講演が行われました。【写真】

講演では、セルフストレスチェックで参加者の自己ストレス度を確認した後、職場でのストレスの現状と課題が紹介されました。実際に起きる頻度が高い「頑張っているのにうまくいかないと悩むAさん」、「上司との関係に悩むBさん」の2事例を基に「こんな時、どうしたらいいのか」をグループで話し合い、最後にストレスを受けても柔軟に対処できる方法として「職場で育むレジリエンス」を職場での実践と繋げて紹介しました。

参加者からは、「最近起きた事象が今回の学びによって、どういうことか理解できた。」、「職場でのストレス



の要因や対処方法について学ぶことができて良かった。」、「自分を振り返り、部署内の状況と合わせて考えることができ、実践的であった。」等の意見があり、本セミナーの目的である自己のストレスに対処し、レジリエンスを高めることに繋がる教育効果の高いセミナーとなりました。



## 小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

令和元年12月19日（木）午後2時から8 A病棟プレイルームにおいて、小児科医局の協力の下、クリスマス会が行われました。【写真】

当日は、スタッフによるパフォーマンスなどイベントが盛りだくさんでした。

最後にサンタクロースから子供たち一人ひとりにプレゼントが手渡されました。プレゼントを手にした子供たちは、満面の笑みを浮かべ、また、ご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。



## 令和元年度医療安全推進週間イベント チームで取り組む医療安全 「患者さん、あなたもチームの一員です」

「医療参加」をコンセプトに掲げた医療安全推進週間イベントを、令和元年11月19日（火）～22日（金）中央棟2階特設ブースにて開催しました。医療安全クイズ、理学療法士による立位バランステスト、AEDを使った救命措置の実演、医療安全川柳の掲示、近隣市町村で使用されているアドバンス・ケア・プランニングの冊子の配布、栄養相談・薬剤相談、ボランティアによる絵手紙・折り紙体験など医療安全の啓発につながるイベントを実施しました。

ブースには、外来患者さんや入院患者さん、お見舞いの方など多数来場され、医療安全について身近に考え、自身ができることについて改めて認識して頂くことができました。立位バランステストに参加された方からは、「体のバランスを知ることは日常ではないため、知ることができて良かった。体を鍛えているとはいえ、転倒には気を付けていきたい。」との感想がありました。



医療安全クイズ参加者用がちゃガチャロボ「安全専ーくん」



理学療法士による立位バランステスト



## 第2回オープンホスピタル開催

令和元年11月2日（土）本院において、第2回オープンホスピタルが開催されました。オープンホスピタルは、地域住民を対象とし、大学病院をより深く知って頂くことを目的に、愛恵会主催公演事業と共同で開催しているイベントです。【写真】

病院職員や看護学部の職員・学生等多くの方の協力を得て、数か月に渡り準備をした甲斐あって来場者は約1,400人となり、今年度も大盛況となりました。

今年度は、普段は立ち入ることができない場所を見学できる院内バックヤードツアーを始め、臨床検査技師のお仕事体験やフライトナース・オペナースの仕事を学ぶ企画、福祉用具を見て・触って・体験できる企画等、新たな企画が多く催されました。

また、昨年度に引き続き企画された薬剤師・診療放射線技師のお仕事体験や栄養部の介護食や流動食の試飲試食ができるコーナー等も内容がブラッシュアップされ、大人気でした。

そのほか、医療福祉相談部が長久手市と共同で開催しているオレンジケータカフェ（若年性認知症カフェ）ともコラボし、よりイベント内容が充実したものになりました。

来年度の開催については未定の段階ではありますが、今年度より更に良いイベントを開催できるよう検討しております。

開催時期などの詳細が決まりましたら、ホームページでご案内いたします。



案内チラシ



バックヤードツアーの様子



臨床検査技師のお仕事体験



オペナースのお仕事体験

## 令和元年度メディカルクリニック講演会開催

この講演会は、地域の方々に向けて平成29年度から開催されています。毎回各分野の専門医師から病気の原因やその治療方法などの解説があり、講演会終了後には希望者に対して個別相談会も開催されています。

毎回30～40名の参加があり、今後もこの講演会を通じて、クリニックの知名度・認知度向上の一助となるよう努めていきます。

今年度の講演内容は、次のとおりです。



アルコール性臓器障害について解説する中尾教授

日時	講演テーマ	講師
令和元年8月10日（土）	知っておきたい喘息の知識	呼吸器・アレルギー内科 河合聖子医師
令和元年9月14日（土）	放っておくと危ない眼科の病気	眼科 伊藤麻耶里医師
令和元年10月19日（土）	狭心症の適切な診断から治療～最新のガイドラインを踏まえて～	循環器内科 高島浩明教授（特任）
令和元年11月30日（土）	副鼻腔炎について：近年増加している副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎）も含めて	耳鼻咽喉科 有元真理子医師
令和元年12月21日（土）	糖尿病について知ろう	糖尿病内科 長尾恵理子医師
令和2年1月18日（土）	あなたは知っていますか？ アルコール性臓器障害の真実を！	副クリニック長 中尾春壽教授（特任）

## 衛生学講座 柴田英治教授（特任） 中央労働災害防止協会緑十字賞受賞

衛生学講座の柴田英治教授（特任）【写真】が、令和元年10月23日（水）から25日（金）までの3日間に京都市勧業館「みやこめっせ」で開催された第78回全国産業安全衛生大会において、中央労働災害防止協会緑十字賞を受賞しました。

これは、日本産業衛生学会からの推薦による「大学又は研究機関等において産業安全又は労働衛生の研究に従事し、その業績が学会等において広く認められている者」の条件を満たす者として、今回「労働衛生学における業績全般（産業中毒、職場で取扱う有害物質により健康障害など）」についての取り組みが高く評価されました。

受賞された柴田教授（特任）からは、「労働衛生学研究では、職場で取り扱われる有害物質による健康障害を動物実験や疫学的方法などで明らかにする一方、実践面で嘱託産業医や労働衛生関連の国家資格技能講習の講師



活動などに30年近く携わってきました。受章を励みに一層の精進と社会貢献に努める所存です。」との感想がありました。

## eラーニングシステム（AIDLE-K）、eポートフォリオシステム（Mahara）利用説明会開催

令和元年11月5日（火）・6日（水）午後4時30分から、大学本館5階マルチメディア教室において、総合学術情報センター（ICT支援部門）主催のeラーニングシステム（AIDLE-K）、eポートフォリオシステム（Mahara）利用説明会が開催され、2日間合わせて19名の参加がありました。【写真】両日ともに、ICT支援部門の担当者から、両システムについての概要と機能説明を行いました。

AIDLE-Kは、ファイルのアップロード、課題の提出、小テストの実施及びアンケートの収集などパソコンや携帯端末を活用した授業支援に効果的な機能を有しており、インターネットを介して、自宅など学外からも予習・振り返り学習等に利用できるようになっています。

また、Maharaは、講義資料やレポート、授業のメモ、プリント、教師や同僚のコメント、課外活動など、教員や学生の学びに関わるあらゆる記録をデジタル化して整理することができる機能を有しており、ポートフォリオとしていつでも振り返ることができるようになっています。



総合学術情報センター（ICT支援部門）では、今後も教育におけるeラーニングシステム及びeポートフォリオシステム活用のサポートを通じて、授業や自学自習における学修支援を行うとともに、教育現場での利用の普及を図っていきます。

## 2019年度産業医講演会の開催

職員が復職について理解を深め、より良い職場環境づくりの一助とすることを目的として、2019年12月18日（水）午後4時から大学本館201講義室において、「本学における復職者のフォローアップ」をテーマに産業医講演会が開催され、教職員110名の参加がありました。【写真】

講演では、本学の産業医である衛生学講座の鈴木孝太教授から、前半は産業医の役割・業務、健康増進モデルの説明等があり、後半は本講演会のテーマである「本学における復職者のフォローアップ」について、休業期間から復職までの流れや面談時のポイント、復職者に対する周りのサポート方法などの説明がありました。

研修会後のアンケートは約9割が「大変満足」、「満足」と回答しており、全体的に満足度の高い講演会となりました。



した。アンケートでは、「定期開催してほしい。」「また、ご講演をお願いしたい。」との意見が出ていることから、来年度以降もこの産業医講演会を開催し、教職員のメンタルヘルスの理解へ繋げていく予定です。



## 情報セキュリティに関する講演会開催

令和2年1月14日（火）午後5時30分から大学本館5階マルチメディア教室において、全学を対象とした情報セキュリティに関する講演会を開催し、教職員等31名が聴講しました。

昨年度に引き続き、SOMPOリスクマネジメント株式会社サイバーセキュリティ事業本部上級コンサルタントの井口洋輔氏を講師に迎え、「身近に潜むセキュリティリスクを考える」と題して、最近の情報セキュリティインシデントや身近に潜む情報セキュリティリスクについ

て、事例等を交えてご講演頂きました。

会場からは、メールの取り扱いについて質問が出されるなど、出席された方々は、標的型攻撃メール等のサイバー攻撃に対処するための方法等について、熱心に聞き入っていました。

本学では、引き続き情報基盤の整備を実施するとともに、情報漏えいが発生しないよう、教職員及び学生への意識啓発に努め、情報セキュリティ対策に一層積極的に取り組んで参ります。

## URA講演会開催 ～大学研究力の向上を目指して～

大学における研究力を高めるために、昨今URA (University Research Administrator) の存在が重要視されています。本学においても、学内の研究を横断的に結び付け、研究力の底上げ、向上を図っていくため、URAに関する情報収集をするとともに、URAへの理解を深めるための講演会（2019年度2回目）を開催しました。

2回目となったこの講演会は、「外部資金獲得・研究支援に向けて、URAとその動向」をテーマとし、令和2年1月17日（金）午後5時30分から、本館301講義室において、自らも活発に研究活動を行い、大学におけるURAの役割等に造詣が深い講師4名をお招きして開催したものです。

講演会は、武内恒成研究創出支援センター長の司会にて、佐藤啓二学長のあいさつの後に、藤田医科大学産学連携推進センターの瀬戸孝一教授による「藤田医科大学における産学連携の推進」と題した講演に始まり、同大学研究支援推進本部・（兼）総合医科学研究所の清水久嗣准教授による「研究側からの支援体制」、大学共同

利用機関法人自然科学研究機構の小泉周特任教授による「URA質保証制度（文部科学省）の動きと展望について」、京都大学学術研究支援室の大菊鋼副室長による「京都大学学術研究支援室（KURA）の概要および外部資金獲得支援・研究支援」と題した講演がそれぞれ行われました。更に、当日、本講演会を聴講された名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部企画・プロジェクト推進グループの渡邊真由美氏により、「名古屋大学のURA制度と業務」と題した講演が行われました。

全体として、URAに関してのみならず、大学を取り巻く研究環境に関することまで言及された内容に、数多く出席された教職員は深い感銘を受けたようで、1回目の講演会同様活発な議論が行われ、充実した内容の講演会となりました。また、講演会の最後は、祖父江元理事長の講演会全体を総括するあいさつで締めくくられました。

今後もURAに関する情報収集を目的とした同様の講演会開催を予定し、本学全体の研究力の向上を目指していきます。



# 教育・研究・診療の基盤整備事業募金寄付者ご芳名（敬称略）

教育・研究・診療の基盤整備事業募金にご協力頂き、心より御礼申し上げます。

ご寄付を頂いた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

（平成30年4月1日～令和元年12月31日現在）

募金総額 110,048,930円 募金者数：個人 93件 法人・団体 16件

## <個人>

浅井 和子	石島 正嗣	井田 雅章	市川 嘉一	岩田 裕次	上野 隆彦	内田 稔也
戎井 浩二	大須賀友晃	岡田 太郎	勝野 正英	加藤 純子	川崎 恭典	岸本 知樹
久野 健一	小杉 将仙	後藤 雄州	後藤八千代	小林 良太	齋藤 照男	坂本真理子
佐々木拓次	佐藤千代香	嶋吉 敏文	鈴木 泰子	祖父江 元	高田 勝	高田麻哉子
高橋 孝子	田中 信彦	田中 元也	田邊 和彦	番井 利恵	堂森 丈正	遠山美智子
富田 幸嗣	仲谷 宗裕	中野 久美	中村 悟己	中山 貴子	西山 耕	林 和子
肥後 夏月	樋上 泰成	深井 健一	福智 寿彦	藤原 祥裕	二村 真秀	古岡 邦人
増岡 尚子	三浦久美子	村上 恒久	村松 忠	森川 晋吾	柳原 崇	矢野浩一郎
山本 千廣	若槻 明彦	渡邊 慎				

匿名 30件（五十音順）

## <法人・団体>

一般財団法人愛知医科大学愛恵会	愛知医科大学医学部父兄後援会	一般社団法人愛知医科大学同窓会
愛知医大サービス株式会社	医療法人社団京愛会	医療法人幸会
医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック	医療法人福智会	医療法人美衣会 衣ヶ原病院
医療法人る・ぶてい・らばん		

匿名 3件（五十音順）

※寄付申込みにあたりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

教育・研究・診療の基盤整備事業募金寄付者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（教育・研究・診療の基盤整備事業募金）においても掲載しています。

## 学 術 振 興

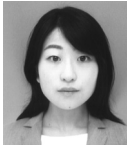
### 2020年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型)	5	16,650
基盤研究 (B) (一般)	11	91,729
基盤研究 (C) (一般)	113	199,044
挑戦的研究 (開拓)	4	28,065
挑戦的研究 (萌芽)	6	11,455
若手研究	77	133,938
合 計	216	480,881

※2020年度分の申請金額 (2019年11月7日(申請締切日)時点)

# 学位授与

## ◆大学院医学研究科



松岡 絵美

学位授与番号 甲第546号

学位授与年月日 令和元年10月17日

論文題目：「Daytime sleepiness in epilepsy patients with special attention to traffic accidents (交通事故に特別な注意を要するてんかん患者の日中の眠気について)」



鈴木 昭博

学位授与番号 乙第399号

学位授与年月日 令和2年1月16日

論文題目：「Effects of polyunsaturated fatty acids on periprocedural myocardial infarction after elective percutaneous coronary intervention (経皮的冠動脈インターベンション後の周術期心筋梗塞に対する多価不飽和脂肪酸の効果)」



濱野 浩一

学位授与番号 乙第398号

学位授与年月日 令和元年11月21日

論文題目：「Oral Litholysis in Patients with Chronic Calcific Pancreatitis Unresponsive to or Ineligible for Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy and Endoscopic Therapy (慢性石灰化膵炎における体外衝撃波結石破碎療法や内視鏡的治療の非奏功例あるいは不応例に対する経口膵石溶解)」

# 研究助成等採択者

## ○公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団

調査研究助成

●氏名 森下啓明 (糖尿病内科・助教)

研究題目 小胞体ストレス下におけるCIDE-Aの発現調節の解明

助成金額 1,000,000円

## ○公益財団法人テルモ生命科学振興財団

研究開発助成

●氏名 池上啓介 (生理学講座・助教)

研究題目 眼圧概日リズムのメカニズムと緑内障発症との関連解明

助成金額 2,000,000円

## 本学講座等の主催による学会等

### 【学会名】

- ・第32回日本外科感染症学会総会・学術集会
- ・第290回日本皮膚科学会東海地方会

### 【開催日】

- 令和元年11月29日(金)・30日(土)
- 令和元年12月15日(日)

### 【会長等】

- 三鴨 廣繁
- 渡邊 大輔

## 第32回日本外科感染症学会総会・学術集会

感染症科・教授 三鴨 廣繁

第32回日本外科感染症学会総会・学術集会は、令和元年11月29日(金)・30日(土)の2日間、岐阜市にある長良川国際会議場及び都ホテル岐阜長良川にて、本院感染症科の山岸由佳教授(特任)を事務局長、防衛医科大学校の小林美奈子先生をプログラム委員長として、750名を超える参加者を得て盛大に開催しました。

本学術集会の目的は、外科医を中心として行ってきた日本の高いレベルの周術期感染の管理・治療に関連各診療科、特に、感染症科、感染制御部、周術期集中治療部、放射線科、薬剤師、感染症看護専門看護師・ICN等とともに更に発展させることでしたが、多くの参加者を得て活発な議論がなされたと確信しております。

第32回総会・学術集会では、学会テーマとして、「紫電一閃～コラボレーションで創成する日本のエビデンス～」を掲げさせて頂きました。「紫電一閃」とは、「研ぎ澄ました刀をひと振りするときにはひらめく鋭い光。転じて、事の火急なこと。」です。周術期感染の管理・治療

に当たっては、急転する可能性がある患者さんに対して、エビデンスに基づいた管理が必要であることは言うまでもありません。しかし、外科・救急領域では、今後の方向性を一瞬の間に判断して実践しなければならない場合も少なくなく、それは経験と学問に基づいたものであろうと思います。そのような中から新しいエビデンスが生まれ、それを検証していくことは極めて重要であると考え、テーマを設定させて頂きました。また、近年は、遺伝子検査やポストゲノム時代の検査などの導入により、臨床検査も進歩を遂げており、我々は新しい技術・進化にも対応していかなければならないという背景もあり、過去の学術集会では珍しく、診断についても議論できた学会であったと確信しております。

末筆となりましたが、本学術集会の開催に当たり、一般社団法人愛知医科大学愛恵会からもご支援を頂きましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 第290回日本皮膚科学会東海地方会

皮膚科学講座・教授 渡邊 大輔

令和元年12月15日(日)名古屋プライムセントラルタワーにおいて、第290回日本皮膚科学会東海地方会が本学を当番校として開催されました。

本学会は日本皮膚科学会に所属する東海三県エリアの皮膚科医が集まる学会で、本学を含む6大学(名古屋大学、名古屋市立大学、藤田医科大学、岐阜大学、三重大学)が交代で当番校として運営を行い、年4回開催されています。

今回の学会には計222名が参加し、生涯教育講演会では本学皮膚科学講座の大嶋雄一郎准教授から「手掌多汗

症・特発性後天性全身性無汗症の診断及び治療について」、浜松医科大学皮膚科の伊藤泰介准教授から「様々な脱毛症の新しい病態理解と治療」、ランチョンセミナーでは神戸市立西神戸医療センター皮膚科の鷺尾健先生から「コリン性蕁麻疹とアトピー性皮膚炎における発汗」の講演がありました。また、34題の一般演題が発表され、活発な討論のもと盛会に終了致しました。

最後に、本学会の開催にご支援とご協力を頂いた本学関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



## ～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介いたします。

### 中央手術部

愛知医科大学病院中央手術部は診療棟（中央棟）4階にあり、19室を有しています。手術件数は今年度初めて1万件を超え、年々増加しています。放射線機器を使用する血管内治療に耐えるハイブリッド手術室、ロボット手術を行うda Vinci<sup>®</sup>、そして脊椎・脊髄外科、脳神経外科手術を安全に行うO-arm<sup>®</sup>+ナビゲーションシステムなど最先端の手術ができ、外科系だけではなく内科系医師も活躍でき得る環境が整っています。それらの高度な医療を行い得られる効果（収入）は病院内随一で、人的物的に多くの投資（支出）をしており、病院経営を左右します。

高度な医療を行うためには自己研鑽とコミュニケーションができ、安全意識が高く、それを遂行する力が必要です。医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、放射線技師などの病院職員だけではなく、滅菌・清掃・物品補充業務を担う委託職員に至るまで全ての関わる職種の人が患者さんの安全を第一に考え行動し努力を続ける部署です。



中央手術部スタッフの集合写真



da Vinci<sup>®</sup>によるロボット手術

## 臨床に結び付く臨床，基礎研究を展開

内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）・教授 伊藤 恭彦

### 【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

学生教育では、昨年、医学教育分野別評価受審において、当診療科は教育実習の審査対象になり、屋根瓦式教育を示し高い評価頂きました。医局員全員に教育の文化を根付かせ、学生クリニカルクラークシップ5学年次生が4学年次生を指導、研修医が学生を指導、上級医が若手医師・研修医を指導する屋根瓦形式を作りあげています。これは、教育の効率を高めるのみならず、教える側にとっても大変勉強になる仕組みとなっています。座学の知識伝授型だけではなく、テーマを与えグループ討議から発表をして頂くアクティブラーニングの形式を盛り込んだ、参加型教育を推進しているところです。

若手医師教育においては、地道な診療ができるドクターを育成することを目標としています。患者さんを丁寧にみる姿勢、疑問点を教科書・文献で検索し確認しながら臨床を進めるようにしています。腎臓分野では、慢性腎臓病、電解質異常、腎代替療法まで幅広く診療ができ、リウマチ膠原病分野では、多彩な疾患群を診断から治療まで、病態を考えながら適切に対応できるよう指導しています。特に若手には、腎臓、膠原病領域に留まらず広く診療できる視野を持ち、患者中心の医療の実践ができるように育てたいと考えています。他文化・他大学との交流も進め、良いところを積極的に取り入れレベルアップを図りたいと考えます。そして、新たな発見は、全国あるいは世界にむけて情報発信することを目標としています。

### 【世界に発信する医学研究】

臨床医は、常に臨床疑問（CQ：Clinical Question）を持たなければいけません。診療において疑問はいつも発生します。CQを持たない、何も疑問に思わない医者は成長が止まります。当診療科では、CQを研究テーマとして取り上げ進めています。CQに対して、疫学的にアプローチを試み、尿・血液から、更には腎及び腹膜組織等の生検で採取したヒト検体を用いて臨床病理学的見地から解析を試みます。

解決できない問題点に対して仮説を立て、必要に応じて動物実験、細胞実験を行い探求していきます。最後のところは、基礎医学の先生方との共同研究によって疑問を解決することも行っています。得られた研究成果を臨床に還元することが最も重要であり、そこが研究の醍醐味です。研究を進めることで、自身の臨床成績を見直し、臨床をより深く追求できるようになると考えます。これは、必ず患者さんにプラスとなると信じています。

広い視野で研究を行う目的で、多くのグループと共同研究を推進しています。学内では、解剖学、生理学、免疫学、分子細胞生物学、研究創出支援センター、腫瘍センター、呼吸器内科、乳腺外科、泌尿器科の先生方と現在連携しています。学外では名古屋大学の丸山教授、名古屋大学大学院創薬科学研究科の人見教授、京都大学の柳田教授、慶應義塾大学の曾我教授、香川大学の西山教授、早稲田大学の川上教授、海外ではデューク大学、オランダアムステルダム大学、ユトレヒト大学と共同研究を進めています。リソースの提供、アイデアの交換、ディスカッション、研究の拡大という点でこれは必須であります。その中で目指している主な研究課題は、次の内容であります。

1. 腎障害進行のメカニズム、タンパク尿出現のメカニズムの解明と対策
2. 慢性腎不全に伴う炎症進展メカニズムとその対策
3. 慢性腎不全、透析合併症の原因究明とその対策
4. 腹膜透析の腹膜機能障害の病態とその対策
5. 膠原病・リウマチ性疾患の病勢をモニタリングするバイオマーカーの確立

### 【講座からの一言】

当診療科では、臨床に結び付く臨床，基礎研究を展開しています。当診療科のスタッフが、海外からも注目され社会に役立つ研究成果を出せるよう日々努力しています。学内外の先生方からのご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。



国際腹膜透析学会（APCM-ISPD）の記念撮影



解剖学教室とのリサーチミーティング

# 規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

## 研究創出支援センター運営委員会規程の一部改正

愛知医科大学研究創出支援センター運営委員会規程の一部が改正され、バイオバンク部会構成員の任期が定められました。

施行日は令和2年1月1日

## 医学部特任教員選考規程の一部改正

愛知医科大学医学部特任教員選考規程の一部が改正され、特任教員の選考において、必要に応じて、候補者に対してプレゼンテーションの実施を課すことができるようになりました。

施行日は令和2年1月1日

## 特定放射性同位元素防護規程の一部改正等

特定放射性同位元素の防護措置等に関し、必要な事項を定めるため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和元年11月19日

### 【新規制定】

- ・愛知医科大学病院特定放射性同位元素に係る防護措置の実施要領

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学病院特定放射性同位元素防護規程
- ・愛知医科大学病院特定放射性同位元素防護委員会運営細則

## 放射線障害予防規程の一部改正等

放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（昭和32年法律第167号）の改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和元年12月1日

### 【新規制定】

- ・放射線業務に係る教育及び訓練実施細則
- ・放射性同位元素等に係る保管記録細則

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学病院放射線障害予防規程

## 臨床倫理委員会規程の制定等

本院で行われる医療行為の倫理的な課題について審議等するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和2年1月1日

### 【新規制定】

- ・愛知医科大学病院臨床倫理委員会規程
- ・愛知医科大学病院臨床倫理コンサルテーションチーム要綱

## 医療安全管理委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院医療安全管理委員会規程の一部が改正され、重大な問題が発生した場合の委員会開催に関することが明記されました。

施行日は令和元年12月1日

## インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の一部改正

インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の一部が改正され、インフォームド・コンセント推進責任者及び副責任者が変更されました。

施行日は令和2年1月1日

## 未承認新規医薬品等評価部門業務規程の一部改正

未承認新規医薬品等評価部門業務規程の一部が改正され、評価部門の構成員が改められました。

施行日は令和元年11月1日

## 「患者さん等からの投書の取扱いについて」の裁定

令和2年1月1日付で「患者さん等からの投書の取扱いについて」が病院長裁定され、病院における患者さん等からの投書の取扱いに関することが定められました。